

1. 授業科目と単位：遠隔教育国際比較論 (135分×10回) 演習 2単位
2. 履修対象者：D1, D2, D3,：メディア社会文化専攻
3. 授業担当教員：苑 復傑
担当教員との連絡 (fujie@nime.ac.jp)
電話 043-298-3211、FAX、043-298-3484、メディア教育開発センター)
4. 授業実施期日時間：(対面講義) 2007年10月24日～12月26日 毎水曜日 14:00-16:15
5. 授業実施場所：(対面講義) メディア教育開発センター 8F教室
6. 履修条件、受講方法：

メディア社会文化専攻に在籍する学生のすべてが、受講可である。
授業は対面講義、文献講読、ディスカッション形式で行う。
申請には受講票をメディア社会文化専攻事務の大学院担当に提出する。
7. 授業内容の概要：

大学教育におけるIT技術の利用に、大学の内部組織と大学外の市場メカニズムがどのようなかわりをもつかについて、アメリカ、日本、中国の事例を通して比較研究を行なう。分析の対象はアメリカ及び日本と中国の大学におけるメディア利用と大学教員の能力開発(FD)であり、メディア社会文化の中でのeラーニング・スタイルの特徴を注目しながら、ファカルティ・デベロップメントの実態とIT利用の教員能力開発プログラムの事例を解説する。これらの学習によって、世界の主要な大学のFDプログラムにおけるIT利用の動向を把握し、IT時代における大学の教育・研究・社会サービスの機能を考察する。
8. 授業の達成目標：
 1. 高等教育の大衆化、情報化の中で、教授・学習のスタイルとニーズが変わり、新しい教育法の導入、特にメディア技術を導入することが必要となった背景を理解する。
 2. そうした背景の中で要求される、メディア技術導入のための大学組織の対応と教員能力開発の方法を、構造的に把握する。
 3. 以上のような事象を特に国際比較の観点から、分析・把握するために必要な情報収集、分析方法を習得する。
9. 授業計画： (対面講義) 日程 内容

第1回	10月24日	IT時代における大学の教育・研究・社会サービス機能
第2回	10月31日	高等教育改革の動向—日本・中国・アメリカ
第3回	11月7日	大学におけるIT利用の国際比較—日本・中国・アメリカ
第4回	11月14日	ファカルティ・デベロップメント(FD)の理論と実態
第5回	11月21日	大学におけるメディア利用とFD — アメリカ (1)
第6回	11月28日	大学におけるメディア利用とFD — アメリカ (2)
第7回	12月5日	大学におけるメディア利用 — 中国
第8回	12月12日	大学におけるメディア利用とFD — 日本

第9回 12月19日 FDの事例の国際比較・考察

第10回 12月26日 総括

10. 使用参考書、参考文献：

『高度情報社会の大学』 マスからユニバーサルへー M. トロウ著 喜多村和之翻訳
玉川大学出版部 2000年

『高等教育とIT』、山地弘起・佐賀啓男、玉川大学出版部、2003。

『大学教授職とFD』、有本章、東信堂、2005。

『大学教授の職業論理』、別府昭郎、東信堂、2005

Paul Resta UNESCO 2002.

“What the Best College Teachers Do” , Ken Bain Harvard Press 2005.

* 講義で使用する資料は講義ごとに配布する。

11. 単位取得要件と成績評価基準：

達成目標1～3のうち、いずれか一つ以上について、自分で調査を行うか見解をまとめてレポートを提出する。期限までに提出されたレポートをみて要点を理解していると判定されたものに単位を認定する。成績は可否で示される。